



2005年12月26日

[1] 2005年度日本IFTOMM会議総会の報告

平成17年6月17日(金), 東京工業大学石川台3号館において総会が開催され, 2004年度の事業報告, 収支決算報告および監査報告, 2005年度の事業計画および収支予算の審議ならびに承認が行われた. 主な議事, 決定内容の詳細は下記の通りである.

I. 2004年度事業報告

1. 国際活動

- (1) 執行委員会 (2004年4月2日)
- (2) 11th IFTOMM World Congress (2004年4月1日~4日 天津, 中国)へ参加
- (3) 国際会議ICMA2004(2004年11月24日~26日)へ協賛

2. 国内活動

- (1) 実行委員会を3回開催 (2004年6月, 12月, 2005年5月)
- (2) 2004年度総会を開催(2004年6月25日, 工学院大学新宿校舎)
- (3) 第10回日本IFTOMM会議シンポジウムを開催(2004年6月25日, 工学院大学新宿校舎)
- (4) 特別講演会/見学会を開催 (2004年11月5日, 防衛大学校)
- (5) 日本IFTOMMニュースNo.32 を発行
- (6) 日本IFTOMM会議ホームページ:
<http://www.mep.titech.ac.jp/micro/iftomm/japanese/index.html> を充実
- (7) 若手会員育成のためのシンポジウム表彰制度の設立
(若手会員育成基金「Young Investigator Fund」に基づく優秀論文賞を制定,
2005年度第11回シンポジウムより実施)
- (8) 会員増強キャンペーンを行う

3. 会員の状況 (2005年4月1日現在)

個人会員: 100名
賛助会員: 5団体

(株) 小笠原プレシジョンラボラトリー
太陽誘電 (株)
(財)機械振興協会
(株) 東芝
日機装 (株)

Ⅱ. 2004年度収支決算報告(平成16年4月1日～平成17年3月31日)

1. 一般会計

収入の部

(単位:円)

項 目	予 算	決 算	備 考
会費収入(個人)	300,000	234,000	2002 3,000×3 2003 3,000×8 2004 3,000×64 2005 3,000×3
会費収入(賛助)	250,000	200,000	2004 50,000×4
総会懇親会会費	100,000	75,000	5,000×15
見学会会費	50,000		
利息		19	
小 計	700,000	509,019	
前期繰越金	120,775	120,775	
合 計	820,775	629,794	

支出の部

(単位:円)

項 目	予 算	決 算	備 考
[国際活動費]	<u>248,000</u>	<u>221,840</u>	2005年度会費
IFTtoMM 年会費	240,000	213,840	US\$ 2,000.00 × 106.92
送金手数料	8,000	8,000	
[国内活動費]	<u>397,000</u>	<u>523,116</u>	
会議費	20,000	16,569	実行委員会費用
講演会費	150,000	278,869	シンポジウム総会費用
見学会懇親会	13,000	17,000	
通信費	25,000	42,010	切手, 宅急便等
コピー代	15,000	15,000	
事務委託費	100,000	100,000	
郵便振替費	7,000	4,180	
ホームページ維持費	12,000	12,000	
フェロー記念品	35,000	35,210	
予備費(雑費)	20,000	2,278	文具等
[MMT誌費]	<u>55,000</u>	<u>55,000</u>	
賛助会員購読料	55,000	55,000	11,000×5 (2003Vol.38) (MMT誌会計へ繰入れ)
小計	700,000	799,956	
次期繰越金	120,775	-170,162	
合計	820,775	629,794	

2. MMT誌会計

収入の部 (単位:円)

項目	予算	決算	備考
MMT誌購読料収入			11,000 × 1 (2005Vol.40)
個人	198,000	153,000	11,000 × 12 (2004Vol.39) 10,000 × 1 (2003Vol.38)
賛助	55,000	55,000	11,000 × 5 (2004) (一般会計から繰入れ)
小計	253,000	208,000	
前期繰越金	75,590	75,590	
合計	328,590	283,590	

支出の部 (単位:円)

項目	予算	決算	備考
出版社への支払	253,000	273,557	VOL. 39 (2004) EUR 86.00 × 23名 × 138.30 (一冊単価: ¥11,894)
送金手数料	8,000	8,000	
小計	261,000	281,557	
次期繰越金	107,384	2,033	
合計	333,590	283,590	

3. 準備金等

(1) 国際会議準備金	710,000
(2) 国際交流活動準備金	400,000
(3) Young Investigator Fund	1,000,000
合計	2,110,000

Ⅲ. 2004年度監査報告

剰余金処分案

平成17年3月31日

(単位:円)

1. 当期未処理分剰余金	-168,129
(1) 前期繰越剰余金	196,365
一般会計	120,775
MMT誌会計	75,590
(2) 当期収益金	-364,494
一般会計	-290,937
MMT誌会計	-73,557
2. 剰余金処理額	
(1) 国際会議準備金	0
(2) 国際交流活動等準備金	0
(3) Young Investigator Fund	0
3. 次期繰越剰余金	-168,129
一般会計	-170,162
MMT誌会計	2,033

上記のとおり相違ありません。

平成17年4月

日本IFTtoMM会議
委員長 三浦 宏文
幹事 岩附 信行

上記の調査を遂げ、その正確であることを承認します。

監事 大輪 武司

監事 山川 新二

IV. 2005年度事業計画案

1. 国際活動

- (1) 執行委員会 (2005年 9月27日)
- (2) 国際会議 International Workshop on Computational Kinematics(CK2005)
(2005年5月4日～6日, イタリア, カッシーノ市)へ協賛
- (3) 国際会議 The 1st International Conference on Design Engineering and
Science (2005年10月28日～31日, オーストリア, ウイーン市)へ協賛
- (4) 国際会議 16th CISM-IFTtoMM Symposium on Robot Design, Dynamics, and
Control (ROMANSY2006)
(2006年6月20日～24日, ポーランド, ワルシャワ市)へ協賛
- (5) 国際会議 7th International Conference on Rotor Dynamics
(2006年9月25日～28日, オーストリア, ウイーン市)へ協賛

2. 国内活動

- (1) 実行委員会を3回開催予定(2005年5月, 2005年11月, 2006年1月)
- (2) 平成17年度総会を開催(2005年6月17日, 東京工業大学)
- (3) 第11回日本IFTtoMM会議シンポジウムを開催(2005年6月17日,
東京工業大学)
- (4) 若手会員育成のためのシンポジウム表彰
(若手会員育成基金「Young Investigator Fund」に基づく優秀論文賞授与,
2005年度第11回シンポジウムにて)
- (5) 日本IFTtoMMニュースを年1回発行予定
- (6) 日本IFTtoMM会議のホームページを充実する
- (7) 特別講演会/見学会を企画する(候補:全日空、スバル研究所)
- (8) 会員増強キャンペーンを行う

V. 2005年度収支予算案(平成17年4月1日～平成18年3月31日)

1. 一般会計

収入の部

(単位:円)

項目	予算	備考
会費収入(個人)	450,000	3,000 × 120(名)(2005年度分) 3,000 × 30(名)(2004年度分)
会費収入(賛助)	300,000	50,000 × 6(社)
総会懇親会会費	100,000	
見学会懇親会会費	50,000	
小計	900,000	
前期繰越金	-170,162	
合計	729,838	

支出の部

(単位:円)

項目	予算	備考
[国際活動費]	228,000	
IFTtoMM 年会費	220,000	2006 US\$ 2,000
送金手数料	8,000	
[国内活動費]	427,000	
会議費	15,000	実行委員会費用
講演会費	230,000	シンポジウム総会費用
見学会費用	10,000	
通信費	25,000	切手、宅急便等
コピー代	15,000	
事務委託費	100,000	年間
郵便振替費	5,000	
ホームページ維持費	12,000	年間
フェロー記念品	5,000	
予備費(雑費)	10,000	文具等
[MMT誌費]	66,000	11,000 × 6 (2005Vol. 40)
賛助会員購読料	66,000	(MMT誌会計へ繰入れ)
国際会議準備金積立	0	
小計	721,000	
次期繰越金	8,838	
合計	729,838	

2. MMT誌会計

収入の部

(単位:円)

項目	予算	備考
MMT誌購読料収入	275,000	11,000 × 19 VOL. 40 (2005)
個人		11,000 × 6 VOL. 39 (2004)
賛助	66,000	11,000 × 6 (一般会計から繰入れ)
小計	341,000	
前期繰越金	2,033	
合計	343,033	

支出の部

(単位:円)

項目	予算	備考
出版社への支払	275,000	VOL. 40 (2005) 11,000 × 25
送金手数料	8,000	
小計	283,000	
次期繰越金	60,033	
合計	343,033	

3. Young Investigator Fund 会計

収入の部

(単位:円)

項目	予算	備考
前期繰越金	1,000,000	
合計	1,000,000	

支出の部

(単位:円)

項目	予算	備考
賞品	30,000	図書カード
賞状及び賞牌	4,000	レーザー彫刻盾
通信費	6,000	
小計	40,000	
次期繰越金	960,000	
合計	1,000,000	

4. 準備金

(1) 国際会議準備金	710,000
(2) 国際交流活動準備金	400,000
合計	1,110,000

VI. 2005年度日本IFToMM会議実行委員会委員

委員長	中村 仁彦	東京大学
副委員長	北條 春夫	東京工業大学
	齋藤 之男	東京電機大学
幹事	岩附 信行	東京工業大学
委員	伊能 教夫	東京工業大学
	内山 勝	東北大学
	大岩 孝彰	静岡大学
	大石 久己	工学院大学
	木村 康治	東京工業大学
	五嶋 裕之	(財)機械振興協会
	小西 義昭	日機装(株)
	齋木 康平	富士重工業(株)
	下条 誠	電気通信大学
	杉本 浩一	東京工業大学
	高西 淳夫	早稲田大学
	高信 英明	工学院大学
	高増 潔	東京大学
	谷江 和雄	首都大学東京
	寺田 英嗣	山梨大学
	中田 毅	東京電機大学
	南後 淳	山形大学
	樋口 俊郎	東京大学
	福田 敏男	名古屋大学
	松下 修己	防衛大学校
	松日楽信人	(株)東芝
	森田 信義	静岡大学
	森脇 一郎	京都工芸繊維大学
	八島 真人	防衛大学校
	渡辺 克己	山形大学
会計監事	山川 新二	工学院大学
	大輪 武司	日本機械学会

日本IFToMM会議2004年度実行委員長、工学院大学学長 三浦宏文先生におかれては、1993年度より実行副委員長、さらに1997年度より実行委員長と、11年の永きにわたり、本会の運営を主導していただき、特に日本IFToMM会議シンポジウムの発足など、本会の活性化に多大なご尽力をいただきましたが、今般、組織の新陳代謝とさらなる活性化のために後進に道を譲られることとなりました。本会実行委員会委員ならびに会員一同は先生のご尽力に深く感謝するとともに、今後の本会のさらなる発展を誓うものであります。後述するように、実行委員会では三浦先生を日本IFToMM会議フェローに推薦し、その卓抜な業績を讃えます。

2005年度実行委員長には東京大学中村仁彦先生(2004年度実行副委員長)が、新たな副委員長には東京電機大学齋藤之男先生(2004年度実行委員)が就任し、新たな組織で、本会のさらなる活性化を目指すこととなった。

VII. 日本IFTtoMM会議フェローの推薦

下記の会員には永年、本会役員として、本会活動に多大な貢献を賜りました。ここに、その業績を顕彰し、日本IFTtoMM会議フェローに推薦します。

工学院大学学長 三浦 宏文 君

永年にわたり本会実行委員長として本会の組織拡充、運営を主導する

総会の様子を以下の写真で示す。



三浦実行委員長開会の挨拶



2004年度報告



日本IFTtoMM会議フェロー記念盾の贈呈



斎藤新副委員長閉会の挨拶

[2] 第11回日本IFT \circ MM会議シンポジウムの報告

総会に先立ち、下記の要領で2005年度第11回のシンポジウムが開催された。発表講演20件を6セッションに分け、1件につき発表時間15分、討論5分で行われた。シンポジウムの参加者は約60名で、講演前刷集が参加者と会員に無料で配布された。

第11回 日本IFT \circ MM会議シンポジウム プログラム

日 時： 2005年6月17日(金) 9:00～18:00

会 場： 東京工業大学石川台3号館工学系会議室

発表テーマ：

セッション1:「ダイナミクス」 座長 木村康治(東工大)

1. 高次スペクトル解析を用いた非線形振動系のマッピング
○松本宏行(ものづくり大), 大石久己(工学院大), 山川新二
2. Q値関数の提案と磁気軸受制御系の減衰評価
○藤原浩幸(防衛大), 伊藤 誠(防衛大院), 池永成毅, 松下修己(防衛大)
3. 磁気軸受形オーバハングロータシステムのQ値評価と回転試験
○伊藤 誠(防衛大院), 藤原浩幸(防衛大), 松下修己

セッション2:「シミュレーション」 座長 岡田昌史(東工大)

4. 運動学習支援のための脊髄神経情報処理手法
○大武美保子(東京大), 中村仁彦
5. メカトロニクス機器・制御ファームウェアのシミュレーション環境
○本橋聖一(インターデザイン・テクノロジー), 吉田充伸(東芝), 塚 浩(東芝ソシオシステムズ)
6. パラレル機構の運動解析における相反空間と双対空間
○杉本浩一(東工大), ハディー・タバコリ・ニア(シャリフ工科大), 榎本敦子(日立)

セッション3:「機構解析」 座長 大岩孝彰(静岡大)

7. トリポード, ツェツパ等速継手系の動力伝達軸の三次元運動解析
○松浦尚志(山形大院), 渡辺克巳(山形大), 村上勝彦(山形大院)
8. 球面ゴムタイヤを用いた全方向移動機構
○圓戸辰郎(東京大院), 中村仁彦(東京大)
9. Hydraulic Lost Motion機構を持つ往復動ポンプの流量制御
○小西義昭(日機装), 内藤 亮(長岡技科大)

セッション4:「計測・センシング」 座長 杉本浩一(東工大)

10. 光ファイバを用いた3Dタッチプローブに関する研究—小型プローブの試作—
○大岩孝彰(静岡大), 田中俊雄
11. 振動法による薄膜のヤング率測定
○藤垣吉章(工学院大院), 鈴木健司(工学院大), 三浦宏文, 高信英明, 栗田昌幸(日立)
12. 2次元荷重分布中心位置検出触覚センサによる2足歩行ロボットのZMP検出
○荒木拓真(電通大院), 谷保勇樹(電通大院), 下条 誠(電通大)

13. 磁力支持天秤装置を用いた流体中物体の動特性測定 ー球体と回転楕円体の付加質量推定ー
○藤原浩幸(防衛大), 小林政洋, 松下修己

セッション5:「機構設計」 座長 伊能教夫(東工大)

14. 負荷感応無段変速機を用いた100g・100N指の開発
○高木 健(東工大院), 小俣 透(東工大)
15. メカトロニクスに頼らない歩行スピード追従型ニージョイントの開発
○月城慶一(オットーボック・ジャパン株式会社)
16. はすば歯車装置のギャノイズ発生メカニズムの実験研究
○渡辺 健(富士重エスバル技術研究所), 三好慶和, 齋木康平
17. 効率およびトルク容量向上を目的としたシャフトドライブCVTの設計
○成田幸仁(東北大院), 山中 将(東北大), 井上克己

セッション6:「ロボットの運動制御」 座長 八島真人(防衛大)

18. 誤差履歴線形和学習に基づく超多自由度ロボットの運動制御
○松浦大輔(東工大院), 岩附信行(東工大), 岡田昌史
19. 大作業領域を有するキャスティングマニピュレータの運動制御
(高速でのグリッパ投射実験とその解析)
泉 慎介(元東工大院), ○武田行生(東工大), 樋口 勝
20. 力学環境に適応変形する群ロボットシステム
○鈴木陽介(東工大院), 木村 仁(東工大), 小関道彦, 伊能教夫

シンポジウムの様子を以下の写真に示す。



シンポジウム風景

また、今回から「Young Investigator Fund」に基づくBest Paper Awardが制定され、
本会フェローで構成される審査委員会による講演論文の事前審査に基づき、下記3
名のFinalistが選出され、

(1)電気通信大学大学院 荒木拓真君

論文: 2次元荷重分布中心位置検出触覚センサによる2足歩行ロボットの
ZMP検出

(2)東京大学大学院 圓戸辰郎君

論文: 球面ゴムタイヤを用いた全方向移動機構

(3)東京工業大学大学院 高木 健君

論文: 負荷感応無段変速機を用いた100g・100N指の開発

さらに、講演発表の審査に基づき、東京工業大学大学院 高木 健君にBest
Paper Awardを贈賞した。

その表彰式はシンポジウム終了後の総会席上で審査委員長北條実行副委員長の
司会により開催され、Best Paper Award受賞者には賞状、賞牌、賞品ならびにFinalist
には賞状および賞品が三浦実行委員長より贈呈された。その表彰式の写真を次ペー
ジに示す。



受賞者の紹介



賞牌の贈呈



賞状の贈呈



受賞の3氏